

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 27 日現在

機関番号：34421

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K04266

研究課題名(和文) 言語教育における地域語・国語・国際語の関係性に関する比較史的研究

研究課題名(英文) Comparative historical study of the relationship between local language, national language, and international language in the linguistic education

研究代表者

長谷川 精一 (HASEGAWA, Seiichi)

相愛大学・共通教育センター・教授

研究者番号：40269824

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：言語教育における地域語、国家語、国際語の関係性に関して、単一言語主義と多言語主義・複言語主義との対比という視角からの日本とフランスとの東西比較に、アラビア語の発展と社会的機能に関する検討を加えて検討する《三角測量》の方法によって、教育と言語の関係について、言語教育の史的発展と地域統合・国民形成との関係という観点から、再考を試みた。

研究成果の概要(英文)：This study analyzed the relationship between local language, national language, and international language in the linguistic education by 'survey by triangulation' of Japan, France, and Arab area. We compared the linguistic education of Japan, France, and Arab area from the perspective of monolingualism and multi-lingualism. We had a rethink about the relationship between education and language, from a viewpoint of the relationship between historical evolution of language education and regional integration / formation of nation.

研究分野：教育史、思想史

キーワード：言語教育 地域語 国語 国際語

1. 研究開始当初の背景

本研究は、言語教育における地域語と国語と国際語との関係性について、日本に関しては沖縄、西洋に関してはフランスのブルターニュ地域、中東地域に関してはアラブ諸国内で教育に関して最も高い外部評価を得ているヨルダンという3つの地域間の比較研究、さらには沖縄と方言矯正の必要が説かれた東北、九州地域との比較、ブルターニュとフランスの旧植民地地域との比較、ヨルダンと他のアラブ地域との比較へと展開することを通じて、従来の教育史研究に新たな視座を得ようとする試みである。

2. 研究の目的

中東地域においては、日本、欧米での国家語と地域語との関係とは異なる言語のあり方があり、アラビア語は聖典語であるフスハー(文語)と地域によって異なる複数のアーンミーア(口語)から成り、アーンミーアは大きくエジプト、シリア、サウジアラビア、イラク、マグレブの各方言に分けられ、ヨルダン語はこのうちのシリア方言の一部をなしており、その中にはヨルダン・アーンミーアとパレスチナ・アーンミーアという地域語が含まれる。フスハーを中心とする国語教育と日常言語であるアーンミーア使用者の間に対立関係や葛藤が生じることはなく、日本語、フランス語という国家語の中に地域語(方言)が複数あるのに対して、ヨルダン語は多数の国家で共通に用いられるアラビア語の一部分である。アラブ世界には国家を単位とする政治的ナショナリズム以外にアラビア語の共有に基づく言語ナショナリズムが存在し、アラビア語のうち、フスハーは国際語となっている。

このような第3項としての中東地域の言語のあり方を視野に入れたとき、国家の枠組みを前提として国民統合という観点から一國主義的にみてきた日本や欧米の言語教育と地域語の関係史はどのように再検討されるのか。また、中東の側からは欧米主導の近代化への対応として、アラビア語による言語ナショナリズム、宗教としてのイスラーム、国家を単位とする政治的ナショナリズムは、アラブ世界の各地域の人びとのアイデンティティ形成に対していかなる影響をもたらすことになるのか。グローバリゼーションのもたらす英語の国際語化という言語マーケットの変容にともなってアラビア語教育はいかなる影響を受けるのか。本研究では、これらの点を解明することを目的とする。

3. 研究の方法

まず、言語教育における地域語と国語との関係性について、沖縄、ブルターニュ、ヨルダンの各地域に関する調査・考察を行い、そ

の成果を集約して討議、検討する。続いて、各地域において言語教育に携わった人物、地域語に関する思想と行動の面で影響力をもった人物を選び、ライフヒストリー的な史料を活用して、個人と社会の相互影響関係、個人のアイデンティティ形成と言語教育との関係について、人間形成の具体的な諸相に即して、各地域によって異なる点と地域を越えて共通する点に着目しつつ、分析を進める。さらに、これらの考察を踏まえて、グローバリゼーションの時代における国語(国家語)と国際語(媒介言語)との関係性について検討する。

4. 研究成果

本研究においては、言語教育における地域語、国家語、国際語の関係性に関して、単一言語主義と多言語主義・複言語主義との対比という視角からの日本とフランスとの東西比較に、アラビア語の発展と社会的機能に関する検討を加えて検討する《三角測量》の方法によって、教育と言語の関係について、言語教育の史的発展と地域統合・国民形成との関係という観点から、再考を試みた。

日本に関しては、沖縄語と標準語教育との関係をめぐる考察の結果を踏まえて、沖縄とその他の各地域との比較考察を行い、どの地域においても、地域語と標準語(国語)との並存・調和が説かれていること、また、言語政策としても、学習指導要領においても、標準語(国語)も大切であり、地域語(方言)も大切であると記されている一方で、グローバル化の時代においては英語は必須の言語であり、英語教育の拡充は必然であるが、日本語も日本人にとって不可欠であると主張されていることに言及した。

フランスに関しては、ブルターニュ地方では、国民国家形成に向けた言語政策、特に1880年代以降の公教育を通じたフランス語(国語)の強制により、地域語のブレイス語が抑圧されてきたこと、これに抗してディワソン会がブレイス語の学校を設立し、今日その二言語併用教育とイマ ジョン教育は国際語(英語)教育への応用という点でも注目を集めていることを明らかにした。

さらに、英語が一種の国際語としての機能を拡大する状況下での日本とフランスの言語教育に焦点を当てて、単一言語主義と多言語主義・複言語主義との対比という視角から考察した。

アラブ地域に関しては、アラビア語の口語と文語の関係が、それぞれ一國主義(ワタニヤ)とアラブ統一を求めるナショナリズム(カウミーヤ)の対立関係と対応するという一般的な説明は、言語的現実と一致していない。他言語にも見られる diglossia(2言語併用)の議論をアラビア語の発展と社会的機能の考察に援用するとどのように理解が広がるかに注目した。アラビア語について

diglossia の対象とすることについての是非をめぐり立場は分かれるが、今後の地域統合、国民形成と教育、言語の関係を理解するうえでの課題は、あくまでも社会言語学的研究成果を「適切に」援用しつつ言語教育の史的発展に重点を置いて考察をすすめることにあるとの認識を持つに至った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

越水雄二「フランス語圏での子どもの2言語併用教育をめぐる議論」
同志社大学社会学部教育文化学研究室
『教育文化』27号、2018、190-209頁。

越水雄二「シャルル・ロラン(1661-1741)のフランス語教育論」
西岡宣明、福田稔、松瀬憲司、緒方隆文、橋本美喜男編『ことばを編む』開拓社、2018、38-49頁。

北澤義之「2016年ヨルダン下院選挙に関する一考察—公共圏に注目して—」
京都産業大学世界問題研究所紀要(第30巻)69-70頁 2018年3月

長谷川精一、越水雄二「言語教育における地域語・国語・国際語の関係性—《三角測量》の前提としての日仏比較—」
『教育文化』、同志社大学社会学部教育文化学研究室、第26号、p39-48、2017年

北澤義之「ヨルダン北西部山岳地帯の歴史」
『カフル・マー村研究—北西部ヨルダン山村の社会構造とその変容—』、イスラーム研究センター、SIAS Working Paper Series、28巻、pp/28-49、2017年。

長谷川精一「沖縄における地域語と「標準語」の間」
『近代化と学問(相愛大学総合研究センター報告書)』、pp.75-90、2016年

北澤義之「現代ヨルダンにおける『部族政治』の変容」
『中東研究研究』、526号、pp.20-32、2016年

越水雄二「シャルル・ロラン Charles Rollin の教育論：フランス近代公教育の形成過程を考察するために」
『教育文化』、同志社大学社会学部教育文化学研究室、第24号、pp.15-36、2015年

長谷川精一、越水雄二、北澤義之「言語教育と地域語との関係に関する比較史的考察」
『相愛大学研究論集』、31巻、pp.17-28、2015年

[学会発表](計2件)

越水雄二「教育史研究の新たな船出に向けて」
教育史学会(招待講演) 2016年10月2日、横浜国立大学

越水雄二「シャルル・ロランの教育論から見たフランス近代公教育論の形成過程」
教育史学会、2015年9月27日、宮城教育大学

[図書](計2件)

北澤義之、私市正年、浜中新吾、中東・イスラーム研究概説—政治学・経済学・社会学・地域研究のテーマと理論
明石書店、全392頁、2017年

北澤義之『アラブ連盟—ナショナリズムとイスラームの交錯(イスラームを知る)』
全123頁、山川出版社、2015年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

長谷川 精一 (HASEGAWA, Seiichi)
相愛大学・共通教育センター・教授
研究者番号：40269824

(2) 研究分担者

越水 雄二 (KOSHIMIZU, Yuji)
同志社大学・社会学部・教授
研究者番号：40293849

北澤 義之 (KITAZAWA, Yoshiyuki)
京都産業大学・外国語学部・教授
研究者番号：(90257767)

